特定医療法人
鵬友会 ニュースレター

第16号

発行／2007年8月15日
特定医療法人社団　鵬友会
発行責任者／
事務局長　　池島　守

鵬友会ホームページ　アドレス
http://www.goodream.co.jp/hoyukai/

事務長といえども職員から育てられた！！
＜ 厳しい経営環境の中で ＞

阿久和鳳荘　事務長　　前沢　恒一

早いもので、阿久和鳳荘の事務長に就任して３年。この４月から４年目に突入した。最初に「鳳荘に異動、事務長で」という命を受けたときの戸惑いは、今でも鮮明に思い起こされます。なぜなら私にとってそれは、初めてづくしだったからです。阿久和鳳荘って介護老人保健施設、介護老人保健施設って介護保険の施設、介護保険って何だ？事務長って事務の長、事務の長って偉いんだよな、何すればいいんだ、なんでも出来なくては、なんでも知っていなくては。いろんなことが、不安やら心配やら希望やらで、頭がいっぱいでした。

そんな中、鳳荘事務長としてのスタートを切りました。とりあえず何の勉強から始めようか。介護保険か、老健か。それとも労務か人事か、経理か。けど、そんな心配は無用でした。鳳荘初日から（まだ職員の顔と名前さえ一致していないのに…）、入れ替わり立ち代り指示を仰ぎに来る、分からないことを聞きに来る。来てくれるのは嬉しい反面、まだ右も左も分からないのに。教えて欲しいのは私の方。とは言えるはずもなく、対応に右往左往する日々が続きました。

一応自分で「正しい」と思う指示をする。けれど本当にそれが正しいのか、自問自答する。もちろん、その指示の結果が正しかったか間違っていたかは後で分かる。

聞かれたことに即答できないのは、とても歯がゆい。だからそれについて調べる。それに付随した項目についても調べる、調べる。介護保険のこと、老健のこと、人事のこと、何から何まで。勉強するのに優先順位はなく、すべてが同時進行でした。

このようにして私は、鳳荘職員に育てられたと感じています。もちろんみんなは知らないでしょう。何気ない一言でも、それが分からなければ、それは私にとって勉強の題材・課題となるのです。誰も何も聞いてこなければ私は何の成長もないまま、年月を過ぎたことでしょう。

ところで、私が鳳荘事務長職を仰せつかってからの３年間に、介護保険のめまぐるしい改定また改定があり、その波と一緒に仕事をしてきたという感じを否定できません。いわゆるホテルコストと言われる、食費・居住費の利用者負担の発生、介護報酬の引き下げによる経営の圧迫。平成１６年度～１８年度はなんとか黒字を確保したものの、引き続き厳しい経営環境であることには間違いありません。売上高は伸びない。作って売って、売れれば儲かる商売ではない。ではどうするか。経費の削減。これはまだまだ削減できる余地は残っている。とは言ってもウン百万ウン千万円単位の削減はとても困難。しかし最近、ある方からとても貴重な言葉を頂戴しました。

「一億円も一円から」一億円という金額も、一円という金額が集まって成り立っている、という話。「だから一円を大切にしなければいけない」、という言われれば尤も。けれど私の中で忘れかけていたことでもあります。素直に反省です。

この鳳荘での３年は、実に早かったと感じています。分からないことだらけからのスタート、がむしゃらでした。今振り返って、自分のしてきたことは正しかったのか、否か。その答えはまだ見つかりません。見つかりませんが、自分のすべきことは少しずつ見えてきた気がします。

それは“情報発信基地”になること。今までは職員などからの質問で分からないことを調べ、それを伝えてきたが、今後は様々な情報を収集し、それを分かりやすく職員に伝えていく。介護保険制度の変更など理解が難しく不安だけが先行することもある。そんな時に、いかに情報発信基地となるのか。

みんなから教わるだけではなく、みんなに教えることができる。そしてお互いに情報交換を活発に行うことが出来る、そんな施設を目指して活きたいと考えています。

医療法人社団鵬友会　幹部研修開催

～　箱根において　～

平成１９年７月２７日・２８日

平成１９年７月２７日より１泊２日で、箱根のホテルにて第４回医療法人社団鵬友会幹部研修会が、出席者５１名で盛大に行なわれました。まず開会の挨拶は、当法人の児玉喜直理事長で医療、福祉に対する社会情勢の厳しさを最新の新聞記事を引用した話を聞き、一同改めて心の手綱を締め直しました。

池島事務局長の講義

本年７月１日から、ほうゆう病院院長に就任しました小阪憲司先生より就任の言葉を頂きました。認知症については第一人者でもある先生は、就任にあたり所信表明を１０ケ条にわたってされました。ご紹介は、次号以降に掲載いたしますのでご期待下さい。

ほうゆう病院　小阪院長就任の挨拶

講義は、法人本部池島 守事務局長より演題「医療行政の動き」について、第一次医療法の改正から第４次医療法改正までの大きな動き、そして現在の医療制度について、さらには次期医療制度における改正の方向性についての予想にまでおよびました。各施設は、医療情勢の厳しさを肌で感じる時間でした。

続いて、当法人１９年度基本目標でもある「外部評価を積極的に受ける」を湘南泉病院が、実践いたしました。日本医療機能評価機構を受審し、結果は４、５点ほどであった指摘事項の改善によって、本年度中にも認定が得られるのではないかということでした。その他の病院、施設もこれに続けと質疑応答に時間を費やし、終了時間を３０分延長するほどの盛り上がりでした。

医療法人鵬友会は、現在１１施設、職員600余名抱える事業体となりました。年１回の研修ですが、それぞれ施設の枠を超えて現場の管理、監督者が意見を述べ合い参加することの意義深さを実感した２日間でありました。